

刀に魅せられて

“武器”としての印象が強い刀ですが、その特性は様々です。時代の変遷に寄り添ってきた歴史性や語り継がれている伝説・逸話の物語性、刀工の創意工夫が凝らされた美術品としての特性などがあります。そこに、それぞれの魅力があるのが刀です。

今月は、そんな刀の奥深さに魅せられる本をご紹介します。

1冊目は、内藤直子/著『もっと知りたい刀剣 名刀・刀装具・刀剣書』です。

刀剣の美術品としての側面を取り上げ、鑑賞に特化した一冊です。名刀と言われる刀剣の写真とともに見所が紹介されています。刀剣の種類・各部の名称・じがね地金の種類・時代による日本の刀剣の姿の変遷が分かりやすい図で紹介されているので、刀剣鑑賞初心者でも刀の見方、楽しみ方を知ることができます。また、持ち手を覆い刀身を納める外装である「拵」や、刀を装う金具である「刀装具」も紹介されています。

最近では、博物館や美術館で刀剣の展示が開催されています。もし刀剣を見る機会があれば、この本で予習をして行くとより楽しめるかもしれません。

2冊目は、宝島社『ヤバすぎる日本刀伝説』です。

日本刀が持つ、伝説・逸話や雑学をコミカルなイラストとともに紹介している一冊。名だたる戦国武将や幕末の志士たちと刀のカッコイイ話や面白い話、人ならざる怪異を退治したと伝えられている刀の話など、日本史や刀について詳しくなくても楽しめるエピソードが満載です。日本史や刀が気になっているけれど、ハードルを感じている人や、ゲームなどをきっかけに、刀とその持ち主の関係性に興味がある人にオススメです。

3冊目は、西尾維新/著『刀語 第1話 絶刀・鉤』です。

刀を使わないきよとうりゅう虚刀流の剣士・やすりしちか鑢七花と奇策士・とがめの活劇冒険譚。伝説の刀鍛冶が人生を賭けて鍛えた十二本の刀を集める旅の物語です。この第1話目では、頑丈さに重きを置いて作られた刀、絶刀・鉤を賭けて真庭忍軍十二頭領が一人、まにわこうもり真庭蝙蝠に戦いを挑みます。果たして、絶刀・鉤を無事蒐集することができるのか。行く先も行く末も知れぬ、刀集めの旅の始まりをご覧ください。

図書館には、他にも刀由来の言葉を解説している本や「刀剣」御朱印のガイド本などもあります。ぜひ、図書館にお越しください。